

CASBEE神戸ver.3
シスメックス新診断薬拠点

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD

スコアシート		竣工段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									4.1
Q1 室内環境					0.33		-		3.9
1 音環境				3.8	0.15		-		3.8
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	-		
1.2 遮音				4.6	0.40		-		
1 開口部遮音性能		開口部遮音 T-2等級		5.0	0.60	3.0	-		
2 界壁遮音性能		界壁遮音性能 Dr40相当		4.0	0.40	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音		床:タイルカーペット、天井:ロックウール化粧吸音板		4.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境				4.1	0.35		-		4.1
2.1 室温制御				3.3	0.50		-		
1 室温				3.0	0.38	3.0	-		
2 外皮性能				3.0	0.25	3.0	-		
3 ゾーン別制御性		室外機をペリメータ・インテリアに分ける。一部冷暖フリー系統採用		4.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御		導入外気を加湿、除湿して、室内湿度を制御		5.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式		事務所にアンダーフロア空調を設置		5.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境				3.6	0.25		-		3.6
3.1 屋光利用				3.0	0.30		-		
1 屋光率				3.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口					-	3.0	-		
3 屋光利用設備				3.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策				4.0	0.30		-		
1 屋光制御		ブラインドに庇を加えた屋光制御の実施		4.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度		オフィスはタスク&アンビエント。アンビエント400Lx、タスク700Lx。		5.0	0.15	3.0	-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境				4.2	0.25		-		4.2
4.1 発生源対策				4.0	0.50		-		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆を全面的に採用		4.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気				4.3	0.30		-		
1 換気量		オフィス30m3/h・人としている。		5.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮		空気取り入れ口は汚染源のない方向から、排気とは6m以上離している。		5.0	0.33	3.0	-		
4.3 運用管理				4.5	0.20		-		
1 CO ₂ の監視		定期的にCO ₂ を測定。		4.0	0.50		-		
2 喫煙の制御		全館禁煙		5.0	0.50		-		
Q2 サービス性能				-	0.30		-		4.1
1 機能性				4.3	0.40		-		4.3
1.1 機能性・使いやすさ				3.3	0.40		-		
1 広さ・収納性				3.0	0.33	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	3.0	-		
3 バリアフリー計画		バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たしている		4.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30		-		
1 広さ感・景観		天井高3m以上、全ての執務者が十分な屋外情報を得られる窓を設		5.0	0.33	3.0	-		
2 リフレッシュスペース		執務スペースの1%以上のリフレッシュルーム+自動販売機を設置		5.0	0.33	-	-		
3 内装計画		コンセプトに基づき内装計画をおこなっている。		5.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理				5.0	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		維持管理のしやすい外装・内装計画としている。		5.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保		工場棟B1F備品庫、第1技術B1Fビル管理中央監視室、休憩室に管理機能を設置している。		5.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				4.4	0.30		-		4.4
2.1 耐震・免震・制震・制振				5.0	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		耐震性能を各段に向上させる免震構造を採用している。		5.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能		内部設備や什器の保護を目的とした床上免震構造を採用している。		5.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.8	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数		品質確保促進法等級3同等の耐用年数を有している。		5.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外ダクト、厨房排気ダクトにガルバリウム鋼板を採用。		5.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水にVLP、排水にVPを採用。		4.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				4.0	0.20		-		
1 空調・換気設備		重要系統に発電機回路を設置。各室外機ごとに運転可能。		5.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備		小水量便器、井水設備、非常用水栓設置。		5.0	0.20		-		
3 電気設備		2回線受電、非常用発電機設置、地階なし。		4.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20		-		

3 対応性・更新性			3.7	0.30	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり			4.2	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高4.8m	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			4.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	外部スペース、天井内スペースの確保。	4.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	PS内に堅管、ユニット便所採用。	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	EPSの設置、OAフロア採用。	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	EPSの設置、OAフロア採用。	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	熱源機器に接してバックアップスペースを確保。	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.37	-	-	4.1
1 生物環境の保全と創出		既存植生の活用他	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		植栽による沿道の連続性の確保及び建築物の連続性に配慮	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30	-	-	4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		隣接テックパーク敷地とつなぐ連絡ブリッジで周辺道路の交通環境向	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		大半の室外機をGL+10m以上に設置。ボイラの煙道はGL+10m以上。	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.77	5.0	0.06	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		工場棟外周廊下ハイサイドライトによる屋光利用	4.0	0.12	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.71	3.9	0.59	-	-	3.9
4 効率的運用			5.0	0.24	-	-	5.0
集合住宅以外の評価			5.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	各幹線系統に電力量計設置。熱源配管に熱量計を設置。	5.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	中央監視装置により定期監視と管理、省エネ目標説明。	5.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			3.0	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.4
1 水資源保護			4.2	0.20	-	-	4.2
1.1 節水		自動水栓、小水量便器の採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			4.4	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	井水利用を行っており、利用率20%以上。	5.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.5	0.60	-	-	4.5
2.1 材料使用量の削減		コンクリートFc=36、鉄筋SD390、鉄骨基準強度SM490材、Pca	5.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		電気炉酸化スラグ骨材	5.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		高速シートシャッター、タイルカーペット、ロックウール化粧吸音板	5.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		内装材と設備の錯綜がない。ユニット(OAフロア等)を使用している。	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		PRTR法対象物質を含まないシーリング材(4種)を使用している。	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	吹付ウレタンフォームA種1H(ODP=0、GWP=1以下)の全面採用	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮		104.46kg-CO2/年・㎡	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止		低NOx型小規模燃焼機器の推奨ガイドラインに則ったボイラー設置	4.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.3	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪場・駐車場の適正駐車台数確保、周辺道路への影響の少ない	5.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミ計測及び工場棟1Fに分別回収集積所を設置	5.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.6	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動	空気圧縮機は防振架台で絶縁し、室内に設置している。	5.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	公害対策、広告物ガイドラインに則っている	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	